北海道大学　社会科学実験研究センター

2024 年度年次活動報告書

2025 年 6 月

北海道大学　社会科学実験研究センター
2024 年度年次活動報告書(2025 年 6 月)

※センターの沿革などについてはホームページへ移行しました。
https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/

1. 社会科学実験研究センターとは

(1)センターの理念

・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2)センターの主な役割

・社会科学実験の国際拠点として先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する(博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等)。

(3)施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 6 階に、1)集団実験室、2)国際ネットワーク実験室、3)感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2024 年度の活動実績の概要

(1)施設利用

実験室での対面実験への参加者数は 2023 年度に引き続いて回復し、同時にオンライン実験も実施されている。

・実験室稼働総日数:延べ 81 日
・実験参加者数:1,611 名 (33 プロジェクト)

(2)研究業績

表 1 2024 年度の研究業績
(人文・社会科学系教員および院生・研究員に限定。詳細は「p. 8～15 研究業績一覧」参照)

著書・分担執筆

全 11 件	洋書:2 件	和書:9 件

学術論文

全 34 件	国際誌:22 件	国内誌:12 件:

学会発表

全 64 件	国際学会:24 件	国内学会:40 件

(3)競争的資金獲得

・科学研究費補助金:34 件、総額 96,110 円(うち人文・社会系 29 件・32,390 千円)
・その他の研究助成:22 件、109,284 千円(うち人文・社会系 9 件・21,084 千円)
(※分担者に関しては分担額を算入)(詳細は「資料 4 競争的資金獲得状況(p. 5～7)」参照)

(4)拠点間連携

連携研究員との活動を通じて、海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進している。例えば、前センター長の結城雅樹教授は、オックスフォード大学社会的凝集性研究センター所長であり、同大学社会人類学科長でもある Harvey Whitehouse 教授が主導する心理学・人類学・歴史学の融合を通じて人間行動と文化の進化・発展を検討する国際共同研究プロジェクト Seshat、また英国サセックス大学と同国公共放送 BBC Radio 4 による善行に関する多国間比較プロジェクト The Kindness Test にコンサルタントとして参画しているほか、ブリティッシュコロンビア大学、シカゴ大学を始めとした世界各地の先端研究拠点との共同研究を進めている。センター長の大沼進教授は、PLOS Climate や Royal Society Open Science 等の副編集委員長をはじめ様々な国際誌のエディタを務める香港科技大学社会科学部 Kim-Pong Tam 教授と、環境行動の国際比較調査の共同研究を推進している。兼務教員の竹澤正哲教授は、マンハイム大学データサイエンスセンター所長 の Jutta Mata 教授とともに、日本学術振興会 二

国間交流事業（共同研究・セミナー）に採択されたことを契機に、文化進化学に関する国際共同研究を開始した。また 日本学術振興会外国人研究者招へい事業により招致したクラークソン大学 Andreas Wilke 教授と、適応的認知についての共同研究をおこなっている。

国内の主要拠点との連携も強化している。2021 年度からは、京都大学情報学研究科教授で、人工知能学会の業績賞や功績賞、国際知識情報創造システム学会など国際学会で数々の優秀発表賞を受賞するなど、マルチエージェントシステム分野ではトップランナーの伊藤孝行教授を連携研究員に迎え、JST-CREST などを通じた共同研究を行っている。

(5)若手研究者の支援とその成果

・日本学術振興会特別研究員：5 名 (表 2)

表 2　日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間 (年度)	研究費 (千円)	研究課題名
水鳥 翔伍	DC1	2022～2024	800	協力問題の解決における他者評価の機能と妥当性―理論と実証の相互補完的連携―
晴木 祐助	DC1	2022～2024	800	予測符号化理論による内受容感覚の生起メカニズムの理解：非侵襲な方法による実証研究
貴堂 雄太	DC1	2022～2024	800	協力及びその文化差の起源を探る―文化的集団淘汰理論に基づく理論・実証的検討―
小林 慧	DC1	2024～2026	1,300	複数他者の潜在的知覚・認知過程の検討による共感性の解明
相馬 ゆめ	DC1	2024～2026	900	公共的意思決定における多元的共通善の検討：除去土壌問題を題材とした集団討議実験

・本センターで研究を行った大学院生の競争的外部資金獲得：8 件、学術賞：6 件 (表 3)

表 3　2024 年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	学会賞・学術賞・フェローシップ
Jason Freeman	Kwok Leung Research Award, International Association for Cross Cultural Psychology
日下部春野	2024 年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞
朱一鳴	Kwok Leung Research Award, International Association for Cross Cultural Psychology
崔青林	Best Paper Award , The 5th International Workshop on Democracy and AI.
竹西海人	2024 年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞受賞者
竹西海人	日本人間行動進化学会第 17 回大会・若手発表賞
松田直祥	北海道大学 EXEX 博士人材フェローシップ
辻本光英	北海道大学 EXEX 博士人材フェローシップ
朱一鳴	日本社会心理学会大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度
日下部春野	日本グループ・ダイナミックス学会国際学会発表支援制度
朱一鳴	日本グループ・ダイナミックス学会国際学会発表支援制度
Jason Freeman	北海道大学大学院文学院「共生の人文学プロジェクト院生旅費支援」
朱一鳴	北海道大学大学院文学院「共生の人文学プロジェクト院生旅費支援」
小野さくら	北海道大学大学院文学院「共生の人文学プロジェクト院生旅費支援」

(6)教育活動

大学院共通授業科目「入門ベイジアンモデリング」を開講した。

本学のサマープログラムである Hokkaido Summer Institute 2024 (HSI2024)を、世界第一線の環境心理学者 Kim-Pong Tam 教授（香港科技大学）を招へいして開催した。これにあわせて、Tam 教授に講演をしていただくとともに、大学院生が研究指導を受けた。

本センター主催のコロキウム（CERSS コロキウム）を 6 件(うち 3 件が海外からの研究者)開催した。

3. 2024 年度の活動の点検・総括

(1)4 つの目標別の点検・評価

① 社会科学実験の国際拠点としての先端研究の展開

本センターの保有する実験参加者登録システムを用いたオンライン実験が、堅実に実施されている。実験参加者数は 2023 年度に続いて増加となり、堅調に増加している。

2024 年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は 33 件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ 81 日、実験参加者総数は延べ 1,611 名であった。これはコロナ禍以前の 2019 年度の数字を越えている。実験参加者総数が延べ 1,000

人以上という規模での実験研究の組織的推進は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。

② 社会科学実験分野における有為の若手人材の育成

2023 年 2 月に本センターに着任したさきがけ研究者の小倉有紀子特任助教の研究活動が本格化した。本センター小倉特任助教は、さきがけ「[社会変革基盤] 文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創」に採択された当初は東京大学の特別研究員であったが、研究に専念するため、実験環境が整っている本センターを志願して移籍した。小倉特任助教は「共生の条件を探る: 価値観の融和はどこまで可能か？」という研究課題に、実験社会科学と神経科学や情報学の手法とを組み合わせた真に文理融合の研究に取り組んでいる。このような日本の将来を背負う若手研究者を迎え入れられたことは、本センターに魅力的な研究環境が整っており、有為の人材育成の拠点であることを示す揺るぎない証左である。

「若手研究者の支援とその成果」(p.2)にも示したように、本センターに活動基盤を置く若手研究者が 6 件の学術賞を得た。また、日本学術振興会の特別研究員として 5 名が採用され、特別研究員奨励費 5 件に加えて 8 件の競争的外部資金を獲得した。加えて、2 名が本学の EXEX 博士人材フェローシップ(JST「 次世代研究者挑戦的研究プログラム」に北大が採択されているもの)に採用された。この他にも、表 3 に示すように国内学会は当然のこと、国際学会でも発表賞を博士研究員や大学院生が受賞するなど、国際的な舞台への活躍の場を拡げている。これらの成果は、本センターが、自立した研究者の育成に向け、若手が早期から主体的な研究活動を行えるための場を提供してきたことの表れと言える。

これまで本センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として高く評価され、国内外の大学や研究機関のポジションを獲得してきた。2024 年度は、本拠点で教育を受けた若手研究者がサセックス大学心理学部、脳情報通信融合研究センター(CiNet)に新たなポジションを得た。

以上のように、本センターでは、「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

③ 国際的にインパクトのある研究成果の発信

2024 年度には、計 22 本の国際学術論文が掲載もしくは掲載決定し、24 件の国際学会発表がなされた。本センター構成員(専任教員・兼務教員及びその指導学生や雇用ポスドク等)による学術論文は、*Scientific Reports*、*PLoS One* (総合科学)、*BMC Psychology*、*i-Perception*、*Evolutionary Human Sciences* (心理学)、*IBRO Neuroscience Reports*、*Frontiers in Neuroscience* (脳神経科学)、*Frontiers in Behavioral Economics* (行動経済学)、Environmental Management (環境科学), *Journal of Deliberative Democracy* (政治学)など広範な領域にまたがる第一線の国際学術誌に掲載された。また、本センター構成員による論文は、心理学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌で多数の引用を受けている。例えば Altmetric Score で、センター長の大沼進教授と兼務教員の結城雅樹教授、瀧本彩加准教授、竹澤正哲教授、河原純一郎教授、小川健二准教授、河西哲子教授、阿部匡樹教授、小浜祥子准教授の論文が Top 5% を維持している。また本数では、Top 5%と Top 25%に、それぞれ 24 本と 25 本、本センターの教員が出版した論文が入っている。

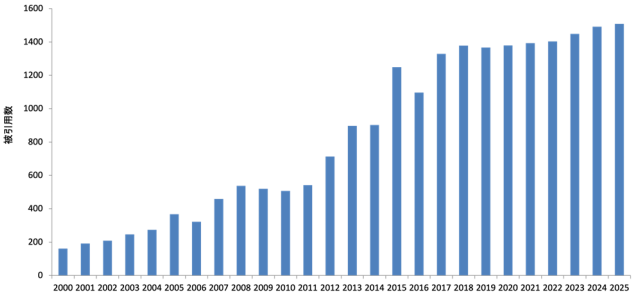

図 1　国際学術誌における論文被引用数の推移.

図 1 は、本センター構成員による論文の国際学術誌における被引用回数の推移を示している。本センターが発足した 2007 年以降、国際業績が着実に増加し、高止まりの状態にあることがわかる(注：本センターには、医歯薬系部局からの兼務教員もいるが人文・社会科学系の構成員による研究成果のみを掲載している)

図 2 に、院生・ポスドクが第一著者となって出版された国際学術論文数の推移を示す。多少の波はあるものの、依然として社会科学分野としては国内では傑出した数を輩出している。

以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果の発信」という所期の目標に対し、着実に成果を積み重ねている。

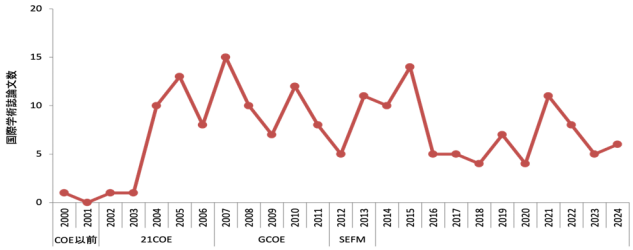

図 2 院生・PD が第一著者として公刊した国際学術論文数の推移

④ 国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、さきがけをはじめ、CREST、国際共同研究加速基金、基盤 A、環境総合推進費などの研究資金を獲得しており、社会科学系として傑出した実績を上げている。このことは、単に資金面だけでなく、国内外のネットワーク拡張・連携強化とも連動する。すなわち、これらの競争的資金は共同研究からなっており、これらのプロジェクトなどを通じて、国内外の主要研究拠点（英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、同サセックス大学心理学部、同ポーツマス大学心理学部・比較進化心理学センター、同バーミンガム大学心理学部、同ロンドン大学ゴールドスミス校心理学部、独マックスプランク進化人類学研究所、香港科技大学社会科学部、中国浙江師範大学心理学院、米シカゴ大学ビジネススクール、同ウィリアム＆メリー大学心理学科、京都大学文学研究科・情報学研究科・環境学堂、東北大学東北アジア研究センター、一橋大学経営管理研究科、玉川大学脳科学研究所、奈良先端科学技術大学院大学、高知工科大学マネジメント学部、早稲田大学基幹工学研究科、生理学研究所生体機能情報解析室、大阪大学人間科学研究科、産業技術総合研究所、国立環境研究所、統計数理研究所、総合地球環境学研究所など）との間に共同研究体制を構築・拡張している。

2020 年 1 月 30 日付で日本学術会議が公開した「第 24 期学術の大型研究計画に関する マスタープラン」（マスタープラン 2020）では、学術大型研究計画（区分Ⅰ）の一つに「調和ある多様性に向けての新しい心理学の構築」が採択され、北海道大学もその実施機関に含まれている。同計画は、マスタープラン 2010、および文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業としても採択された「心の先端研究のための連携拠点（WISH）構築」事業で積み重ねられた実績を、さらに次のフェーズへと飛躍させるものであると位置づけられている。WISH 事業では、本センターに対してシーメンス社製 3 テスラ MAGNETOM Prisma（施設整備費補助事業; 3 億円）が導入され、現在も本センターの研究設備として稼働している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって幅広く利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

（2）総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的に適うものである。さきがけ研究者の特任助教の着任に象徴されるように、本センターは秀逸な若手研究者の集まる拠点であることは明白である。

このように、本センターは社会科学実験の国際的中核拠点として、日々の研究教育活動を鋭意展開している。北海道大学の人文社会科学分野における屈指の先端研究拠点として、社会科学実験の国際的進展と普及に努めつつ、来るべき「人間・社会科学統合」に向けて世界的役割を果たしていくことが、本センターの今後の重要なミッションである。

資料 1 CERSS コロキウム、共催ワークショップ学術セミナー等

日付	タイトル	講演者
CERSS コロキウム		
2024/6/13	人の身体・動きの魅力とは何か？－生体工学・認知科学的アプローチによる探求－	田辺弘子（北海道大学大学院文学研究院心理学研究室・准教授）
2024/8/8	Global Norm of Government Climate Action and Public Support for Domestic Climate Policies	Kim-Pong Tam (Division of Social Science, The Hong Kong University of Science and Technology, Professor)
2024/9/4	子どもの主観的経験とその構造	森口佑介先生（京都大学大学院文学研究科・准教授）
2025/2/19	世代間利他主義と世代間衡平性：排出ギャップの源泉	赤尾健一 (早稲田大学社会科学総合学術院・教授)
2025/2/26	Application of Behavioral and Communication Theories for Well-being: Insights from Thailand	Sukanya Sereenonchai (Chair of B.Sc. Program in Environmental Science and Technology / Associate Professor) Noppol Arunrat (Deputy Dean for Research and Academic Services / Associate Professor)
2025/3/3	Social Capital: Experimental validation of survey measures using a cross-societal approach	Stein Østbye (UiT The Arctic University of Norway, Tromsø / Professor)

資料 2 学外研究機関との共同研究による施設利用実績

2024 年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は 33 件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ 81 日、実験参加者総数は延べ 1,611 名であった。

さらに、2014 年度より利用を開始した磁気共鳴画像装置(MRI)の 2024 年度稼働日数は 193 日、実験参加者総数は 260 名であった。

資料 3 アウトリーチ活動

日付	タイトル	実施者
2024/9/29	新時代を迎えた認知症診療と今後の展望 (ベネッセの認知症タウンミーティング基調講演)	矢部一郎
2024/10/25	「私」の行為に潜む「他者」の影響 (アカデミックファンタジスタ 2024 (札幌南高校))	阿部匡樹
2024/11/6	「私」の行為に潜む「他者」の影響 (学部学科説明会（札幌東高校）)	阿部匡樹
2024/11/6	脳が世界をどう作るか？ 知覚心理学で探る視覚と錯覚と『現実』の関係	金子沙永
2024/11/9	高齢者介護組織の経営 ―資源，活動，価値基準のパッケージ― (社会福祉法人北海長正会 法人幹部職員研修)	深山誠也
2024/11/13	「私」の行為に潜む「他者」の影響 (アカデミックファンタジスタ 2024 (札幌国際情報高校))	阿部匡樹
2024/11/14	研究者って何やってるの？どうやったらなれるの？ (職業体験(北辰中学校))	阿部匡樹
2024/11/19	脊髄小脳変性症～多系統萎縮症と遺伝性脊髄小脳変性症の基礎知識	矢部一郎

資料 4 競争的資金獲得状況の詳細

文部科学省科学研究費（代表）

(社会科学実験研究センター教員が代表を務める研究について、2024 年度に交付された直接経費の金額)

資金名	期間(年度)	代表者(他・分担者数)
研究課題		金額(千円)
基盤研究 (S)	2024～2028	田中真樹
小脳を起点とした大脳機能連関による行動戦略のアップデート機構の解明		47,000
基盤研究 (A)	2020～2024	宮内泰介、他 12 名
多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ：実践論的アプローチによる研究		5,800
基盤研究 (A)	2022～2025	高橋伸幸、他 4 名
一般交換において用いられる評判情報を作りだす情報統合過程の理論的・実証的検討		9,300
基盤研究(B)	2024～2027	小川健二
感覚運動皮質における層別情報表現の解読による能動的推論仮説の検証		3,000
基盤研究 (B)	2022～2026	大沼進、他 3 名
分断を乗り越えた共通善を目指す合意形成過程：功利主義 vs 多元的公正の超克		2,600
基盤研究 (B)	2022～2026	瀧本彩加
共同養育とその心理基盤に関する比較認知発達科学的研究		1,900
基盤研究 (B)	2023～2025	矢部一郎
Bassoon proteinopathy 病態に関する継続的研究		5,300
基盤研究 (B)	2022～2027	結城雅樹、他 3 名
高関係流動性下の自己奉仕性と向社会性のパラドクスーポジティブ評判期待の役割		3,200
基盤研究 (C)	2023～2025	阿部匡樹、ほか 1 名
最適化か、社会性か：共同行為における潜在的組織化の解明		1,400
基盤研究 (C)	2024～2026	深山誠也
高齢者介護組織の組織能力パッケージの動態的解明		910
挑戦的研究(萌芽)	2022～2024	小川健二
脳状態可視化に基づく内受容注意モニタリングシステム開発とマインドフルネスへの応用		1,950

挑戦的研究(萌芽)	2022～2024	尾崎一郎
法言語の美的洗練による応答性の向上―計量言語分析と社会心理実験による検証―		900
若手研究	2021～2024	小倉有紀子
柔軟な社会情報利用戦略の神経基盤		1,430

文部科学省科学研究費（分担）

(社会科学実験研究センター教員が分担者を務める研究について、2024 年度に配分された分担額)

資金名	期間(年度)	分担者
研究課題		金額 (千円)
国際共同研究加速基金（海外連携研究）	2023～2025	金子沙永(代表：四本裕子、他 1 名)
時間感覚知覚の神経機序の検証と理論に基づく時間感覚操作法の確立		2,300
基盤研究 (A)	2023～2026	金子沙永、小川健二(代表：高橋庸介、他 1 名)
知覚像はどこまで自由に操れるのか：知覚像制御の心的過程と脳内基盤の解明		800
基盤研究(A)	2024～2027	金子沙永(代表：栗木一郎、他 6 名)
脳活動および知覚の個人差に基づく脳内色情報表現の研究		500
基盤研究 (A)	2022～2026	小浜祥子 (代表：多胡淳、他 5 名)
国際関係をめぐる不満の国際比較実証研究		700
基盤研究(A)	2023～2026	小浜祥子(代表：鈴木基史、他 6 名)
分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析		900
基盤研究 (A)	2022～2025	小浜祥子(代表：久保文明、他 22 名)
現代アメリカにおける政治的地殻変動：政党再編と政策的収斂		170
基盤研究 (A)	2024～2028	河原純一郎(代表：山口真美、他 3 名)
顔認知のエキスパート化に顔学習環境が及ぼす影響の実験的検討		300
基盤研究(A)	2022～2025	瀧本彩加(代表：高橋伸幸、他 3 名)
一般交換において用いられる評判情報を作り出す情報統合過程の理論的・実証的検討		1,000
基盤研究(B)	2022～2025	小濱祥子(代表：清水直樹、他 4 名)
選挙対策としての政策変更：選挙の存在が政策に及ぼす影響の包括的分析研究課題		400
基盤研究 (B)	2022～2024	宮内泰介(代表：菅豊、他 9 名)
ヴァナキュラー概念を用いた文化研究の視座の構築―民俗学的転回のために―		200
基盤研究 (B)	2021～2024	大沼進(代表：安藤香織、他 2 名)
多元的無知が環境配慮行動を阻害するプロセスの解明－国際比較調査・実験による検討		150
基盤研究 (B)	2022～2024	大沼進(代表：鈴木研悟、他 2 名)
AI と人間のゲームプレイを統合するエネルギー政策評価法の提案		200
基盤研究 (B)	2021～2024	矢部一郎(代表：野田航介、他 2 名)
加齢黄斑変性におけるセリン/スレオニンキナーゼ LRRK2 の病態意義解明		100
基盤研究 (C)	2023～2025	深山誠也(代表：平本健太)
政策形成と組織間関係－新・政策の窓モデルによる実証研究		500
基盤研究(C)	2023～2025	河原純一郎(代表：大杉尚之)
「ホスピタリティ」を感じさせる身体動作のパラメータ推定		200
基盤研究(C)	2024～2027	小川健二(代表：柴田寛)
運動と感覚の強度に関する言語刺激を量的シミュレーションで理解する脳内基盤の解明		150
基盤研究 (C)	2021～2024	大沼進(代表：水田恵三、他 1 名)
なぜ戻り、どのように復興しようとしているのか―原発被害者の帰住に関する研究―		50
基盤研究(C)	2023～2026	河原純一郎(代表：大杉尚之)
「ホスピタリティ」を感じさせる身体動作のパラメータ推定		200
基盤研究 (C)	2022～2025	矢部一郎(代表：饗場郁子、他 10 名)
パーキンソニズムを呈する神経変性疾患におけるサルコペニア・骨粗鬆症と予後の関連		100
基盤研究(C)	2024～2026	矢部一郎 (代表：山田崇弘、他 4 名)
医療資源の少ない遠隔地におけるゲノム医療展開に関わる課題抽出と解決戦略の解明		200
挑戦的研究(開拓)	2021～2024	高橋泰城 (代表：松井知子、他 5 名)
統計・機械学習による異分野相関を俯瞰する方法論の確立		500

文部科学省科学研究費を除く研究助成

社会科学実験研究センター教員が代表及び分担者を務める研究について、2024 年度に交付・配分された金額）

資金名	期間(年度)	代表者・分担者
研究課題		金額(千円)
環境省(環境再生保全機構) 環境総合推進費	2022～2024	大沼進、他 1 名
県外最終処分・周辺地域の将来デザイン利用に向けた社会受容性評価と合意形成フレームワークに関する研究 県外最終処分等に関わる多元的公正の整理および実験的評価		7,000
国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(JST CREST)	2020～2025	大沼進(代表：伊藤孝行、他 3 名)
ハイパーデモクラシー：ソーシャルマルチエージェントに基づく大規模合意形成プラットフォームの実現		8,000

環境省（環境再生保全機構）環境研究総合推進費	2021～2025	大沼進(代表：大迫政浩、他９名)
3R プラスと海洋プラスチック排出抑制対策に係る評価システムの構築		1,533
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム「サーキュラーエコノミーシステムの構築」	2023～2027	大沼進(代表：浅利美鈴)
プラスチックの適切な資源循環システム構築に向けた消費者等の行動変容に係る実践的研究		1,800
原子力発電環境整備機構「地層処分事業に係る社会的側面に関する研究支援事業 III」	2024～2026	大沼進(代表：野波寛、他１名)
当事者・非当事者の相互作用が両者の意思決定プロセスに影響を及ぼすスパイラル・アプローチの提起		1,951
JST 戦略的創造研究推進事業(さきがけ)	2022～2025	小倉有紀子
共生の条件を探る：価値観の融和はどこまで可能か？		6,306
北海道大学　総合イノベーション創発機構 研究人材育成推進室（L-Station)次世代研究者リーダー育成共同研究助成	2024	小倉有紀子
生成 AI とのコミュニケーションを通じた意見変容のメカニズムを探る		500
JST 戦略的創造研究推進事業 CREST	2023～2028	田中真樹
感覚入力の周期性が生み出す脳機能の理解とその操作		46,100
北海道大学　総合イノベーション創発機構 研究人材育成推進室（L-Station)次世代研究者リーダー育成共同研究助成	2024	瀧本彩加、他２名
飼育下のアジアゾウにおける音声コミュニケーションの機能と発達		500
TOPPAN ホールディングス株式会社　産業創出講座　認知症包括研究部門	2023～2027	矢部一郎
測定デバイスを用いた認知症の早期診断および評価法に関する探索的研究、及びエクソソームを用いたアルツハイマー病の早期診断技術の研究		22,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　認知症研究開発事業	2023～2025	矢部一郎(代表：関島良樹)
病的バリアントを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進		1,500
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　認知症研究開発事業	2024～2028	矢部一郎(代表：岩坪威)

アルツハイマー病疾患修飾薬全国臨床レジストリの構築と解析		1,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　臨床研究・治験推進研究事業	2024～2027	矢部一郎(代表：勝野雅央)
アルツハイマー病早期診断のための細胞外小胞デジタル検出法開発		1,500
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　難治性疾患実用化研究事業	2023～2025	矢部一郎(代表：塩田倫史)
CAG/CTG リピート伸長病における DNA 標的治療薬の開発		2,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　難治性疾患実用化研究事業	2022～2024	矢部一郎(代表：矢口裕章)
超希少難治性疾患である免疫介在性小脳性運動失調症の疾患レジストリ構築および治療法確立を目的としたエビデンス創出研究		800
厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）	2023～2025	矢部一郎(代表：久留聡)
スモンに関する調査研究		200
厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）	2024～2025	矢部一郎(代表：山田正仁)
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究		1,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構　認知症研究開発事業	2024～2026	矢部一郎(代表：湯山耕平)
血液中細胞外小胞分子デジタル検出技術を利用したアルツハイマー病バイオマーカー診療法の開発研究		10,000
厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）	2022～2024	矢部一郎(代表：阿部康二)
「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」（ME/CFS）の実態調査および客観的診断法の確立に関する研究		600
厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）	2023～2025	矢部一郎(代表：小野寺理)
運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班		700
厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）	2023～2025	矢部一郎(代表：戸田達史)
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究		800

【著書・分担執筆(洋書)】

Cui, Q., Shibata, Y., Hara, T., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ito, T., and Ohnuma, S. (2025). Utterance Analysis of Discussions Structure and Discourse Quality: A Case of Removed Soils in Fukushima Prefecture, Japan. In Yin, W., Ahn, J. J., Zhang, R., Huang, L., Hadfi, R., Ito, T., Ohnuma, S., & Shiramatsu, S. (Eds.) Artificial Intelligence for Research and Democracy. Springer, 86-92. DOI: 10.1007/978-981-97-9536-9.

Yin, W., Ahn, J. J., Zhang, R., Huang, L., Hadfi, R., Ito, T., Ohnuma, S., & Shiramatsu, S. (Eds.) Artificial Intelligence for Research and Democracy. Springer.

【著書・分担執筆(和書)】

原田知広・田中真樹. (2024). 時間の学校. ニュートンプレス.

河原純一郎. (2024). マイケル・ポズナー. In サトウタツヤ(監修), 長岡千賀・横光健吾・和田有史(編). 人物で読む心理学事典. 朝倉書店. 339-344.

河原純一郎. (2024). 実験法，観察法・面接法，研究倫理. In 公認心理師の基礎心理学. 文光堂.

宮内泰介. (2024). 社会学をはじめる：複雑さを生きる技法. 筑摩書房.

瀧本(猪瀬)彩加. (2024). 「空気を読む」馬. In 山口未花子・石倉敏明・盛口満. 〈動物をえがく〉人類学――人はなぜ動物にひかれるのか. 岩波書店.

矢部一郎. (2025). 運動失調. In 今日の診断指針 第 9 版. 医学書院.

矢部一郎. (2025). 痙性対麻痺(HAM を含む). In 今日の治療指針 2025. 医学書院.

矢部一郎. (印刷中). ハンチントン病. In 私の治療　2025-26 年版. 日本医事新報社.

矢部一郎. (印刷中). ハンチントン病. In 今日の治療指針 2026 年版―私はこう治療している. 医学書院.

【学術雑誌(国際誌)】

Abe, M., Yaguchi, H., Fujiwara, K., Kudo, A., Naganuma, R., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., & *Yabe, I.　(2024). A patient presenting downbeat positioning nystagmus with 19/11 CAG repeats in the CACNA1A gene: A case report. *Neurology and Clinical Neuroscience*, **12**, 359-362, DOI:10.1111/ncn3.12824.

Allen, J. A., Lin, J., Basta, I., Dysgaard, T., Eggers, C., Guptill, J. T., Gwathmey, K. G., Hewamadduma, C., Hofman, E., Hussain, Y. M., Kuwabara, S., Le Masson, G., Leypoldt, F., Chang, T., Lipowska, M., Lowe, M., Lauria, G., Querol, L., Simu, M. A., Suresh, N., Tse, A., Ulrichts, P., Van Hoorick., B., Yamasaki, R., Lewis, R. A., van Doorn, P. A., & ADHERE Study Group. (2024). Safety, tolerability, and efficacy of subcutaneous efgartigimod in patients with chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (ADHERE): a multicentre, randomised-withdrawal, double-blind, placebo-controlled, phase 2 trial. *The Lancet Neurology*, **23**(10), 1013-1024, DOI:10.1016/S1474-4422(24)00309-0.

Anstis, S., Kaneko, S., & Cavanagh, P. (2024). Pink illusions and white shifts. *i-Perception*, **15**(6), DOI:10.1177/20416695241291303.

Eguchi, K., Yaguchi, H., Uwatoko, H., Iida, Y., Hamada, S., Honma, S., Takei, A., Moriwaka, F., & Yabe, I. (2024). Feasibility of differentiating gait in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using a pose estimation algorithm in two-dimensional video. *Journal of the Neurological Sciences*, **464**, 123158, DOI:10.1016/j.jns.2024.123158.

Eguchi, K., Yaguchi, H., Uwatoko, H., Iida, Y., Hamada, S., Honma, S., Takei, A., Moriwaka, F., & Yabe, I. (2025). Gait video-based prediction of severity of cerebellar ataxia using deep neural networks. *Movement Disorders*, **40**(4), 752-758, DOI: 10.1002/mds.30113.

Fujii, S., Takahashi-Iwata, I., Oshima, Y., Horiuchi, K., Shimoyama, N., Tanei, Z. I., Satoh, K., Kitamoto, T., Tanaka, S., & Yabe, I. (2024). Amyloid-beta pathology in a case with dementia with Lewy bodies with a rapidly progressive clinical course similar to Creutzfeldt−Jacob disease. *Neuropathology*, DOI: 10.1111/neup.13017.

Fujii, S., Yaguchi, H., Takahashi-Iwata, I., Inoue, T., Tarisawa, M., Nomura, T., Kudo, A., Uwatoko, H., Shirai, S., Matsumoto, M., Miyaishi, R., Otsuka, N., Tanaka, K., Taniguchi, K., Takahashi, M., Tanaka, S., & Yabe, I. (2024). Anti-Tr/DNER antibody-associated paraneoplastic neurological syndrome presenting limbic encephalitis with anaplastic large cell lymphoma: A Case Report. *Internal Medicine,* DOI:10.2169/internalmedicine.4530-24.

Haruki, Y., Kaneko, K., & Ogawa, K. (2024). No Gender Difference in Cardiac Interoceptive Accuracy: Potential Psychophysiological Contributors in Heartbeat Counting Task. *BMC Psychology*, **13**(176), DOI:10.31234/osf.io/syt8j

Homma, S., & Takezawa, M. (2024). Risk preference as an outcome of evolutionarily adaptive learning mechanisms: An evolutionary simulation under diverse risky environments. *PLoS One*, **19**(8), DOI:10.1371/journal.pone.0307991.

Homma, H., Yoshioka, Y., Fujita, K., Shirai, S., Hama, Y., Komano, H., Saito, Y., Yabe, I., Okano, H., Sasaki, H., Tanaka, H., & Okazawa, H. (2024). Dynamic molecular network analysis of iPSC-Purkinje cells differentiation delineates roles of ISG15 in SCA1 at the earliest stage. *Communications Biology*, **7**(1), 413, DOI:10.1038/s42003-024-06066-z.

Kakuguchi, W. (corresponding), Ashikaga, Y., Moritani, Y., Nakano, S., Ogawa, N., Yoshitatsu, R., Yanagawa-Matsuda, A., Maishi, N., Kudo, A., Okazaki, N., Nakamaru, Y., Yabe, I., Matsuno, Y., & Ohiro, Y. (2024). Nonspecific inflammatory pseudotumor of the maxillary and temporal fossa: a study of seven cases. *Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology*, **138**(4), 494-501, DOI:10.1016/j.oooo.2024.06.002.

Kambara, K., Toya, A., Lee, S., Shimizu, H., Abe, K., Shigematsu, J., Zhang, Q., Abe, N., Hayase, R., Abe, N., Nakai, R., Aoki, S., Asano, K., Asano, R., Fujimura, M., Fukui, K., Fukumoto, Y., Furutani, K., Hasegawa, K., Hashimoto, H., Hashimoto, M., Hosogoshi, H., Ikeda, H., Ishioka, T., Ito, C., Iwano, S., Kamada, M., Kanai, Y., Karita, T., Kasagi, Y., Kashima, E. S., Kato, J., Kawachi, Y., Kawahara, J., Kimura, M., Kira, Y., Kiyonaga (Sakoda), Y., Kohguchi, H., Komiya, A., Masui, K., Midorikawa, A., Mifune, N., Mizukoshi, A., Nawata, K., Nishimura, T., Nogiwa, D., Ogawa, K., Okada, J., Okamoto, A., Okamoto, R., Sasaki, K., Sato, K., Shimizu, H., Sugimura, A., Sugitani, Y., Sugiura, H., Sumioka, K., Sunaguchi, B., Takebe, M., Tanabe, H. C., Tanaka, A., Tanaka, M., Taniguchi, J., Tokunaga, N., Tomita, R., Ueda, Y., Yamashita, T., Yamaura, K., Yogo, M., Yokotani, K., Yoshida, A., Yoshida, H., Yoshihara, K., Yoshikawa, A., Yanagisawa, K., & Nakashima, K. (2024). Can online interactions reduce loneliness in young adults during university closures in Japan? The directed acyclic graphs approach. *Asian Journal of Social Psychology*. DOI:10.1111/ajsp.12658.

Kaneko, S., Anstis, S. & Cavanagh, P. (2024). Illusory shrinkage of objects under backward masking. *i-Perception*, **15**(6), DOI:10.1177/20416695241304655.

Kawabori, M., Kuroda, S., Shichinohe, H., Kahata, K., Shiratori, S., Ikeda, S., Harada, T., Hirata, K., Tha, K. K., Aragaki, M., Terasaka, S., Ito, YM., Nishimoto, N., Ohnishi, S., Yabe, I., Kudo, K., Houkin, K., & Fujimura, M. (2024). Intracerebral transplantation of MRI-trackable autologous bone marrow stromal cells for patients with subacute ischemic stroke. *Med*, **5**(5), 432-444.e4, DOI:10.1016/j.medj.2024.02.009.

Kido, Y., & Takezawa, M. (2024). Coevolution of norm psychology and cooperation through exapted conformity. *Evolutionary human sciences*, **6**(6e35), DOI:10.1017/ehs.2024.37.

Kimura, I., Noyama, H., Onagawa, R., Takemi, M., Osu, R., & Kawahara, J. I. (2024). Efficacy of neurofeedback training for improving attentional performance in healthy adults: A systematic review and meta-analysis. *Imaging Neuroscience*, **2**, 1-23. DOI:10.1162/imag_a_00053

Mata, J., Knobl, V., & Takezawa, M. (2025). Exploring the role of adolescents in healthier, more sustainable family meals: A decision study on meat consumption. *Appetite*, **208**(1), DOI:10.1016/j.appet.2025.107916.

Matsuda, N., & Abe, M. O. (2024). Implicit sensorimotor learning in ballistic movement for transporting an object to a target. *Scientific Reports*, **14**(1), 21003, DOI:10.1038/s41598-024-71925-y

Matsuda, N., & Abe, M. O. (2024). Attenuation of implicit motor learning with consecutive exposure to visual errors. *IBRO Neuroscience Reports*, **17**(32), 37, 10.1016/j.ibneur.2024.05.004

Matsushima, M., Yaguchi, H., Koshimizu, E., Kudo, A., Shirai, S., Matsuoka, T., Ura, S., Kawashima, A., Fukazawa, T., Miyatake, S., Matsumoto, N., & *Yabe, I. (2024). FGF14 GAA repeat expansion and ZFHX3 GGC repeat expansion in clinically diagnosed multiple system atrophy patients. *Journal of Neurology*, **271**(6), 3643-3647, 10.1007/s00415-024-12308-1.

McFarland, K. N., Tiwari, A., Hashem, V., Zhang, L., Zeng, D., Vincent, J., Arredondo, M. J., Johnson, K. L., Gan, SR., Yabe, I., Skov, L., Rasmussen, A., & Ashizawa, T. (2024). Extended haplotype with rs41524547-G defines the ancestral origin of SCA10. *Human Molecular Genetics.* **18,** 1567-1574, DOI:10.1093/hmg/ddae092.

Miyatake, S., Doi, H., Yaguchi, H. (co-first, author), Koshimizu, E., Kihara, N., Matsubara, T., Mori, Y., Kunieda, K., Shimizu, Y., Toyota, T., Shirai, S., Matsushima, M., Okubo, M., Wada, T., Kunii, M., Johkura, K., Miyamoto, R., Osaki, Y., Miyama, T., Satoh, M., Fujita, A., Uchiyama, Y., Tsuchida, N., Misawa, K., Hamanaka, K., Hamanoue, H., Mizuguchi, T., Morino, H., Izumi, Y., Shimohata, T., Yoshida, K., Adachi, H., Tanaka, F., *Yabe, I., & Matsumoto, N. (2024). Complete nanopore repeat sequencing of SCA27B (GAA-FGF14 ataxia) in Japanese. *Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry*. **95**(12), 1187-1195, 10.1136/jnnp-2024-333541.

Miyazaki, Y., Ura, S., Horiuchi, K., Matsuoka, T., Hozen, H., Tuzaka, K., Makino, Y., Koshida, M., Oyama, G., Sato, C., Naganuma, R., Amino, I., Akimoto, S., Niino, M., Minami, N., Takahashi, E., Ota, S., Hattori, N., Yabe, I., & Kikuchi, S. (2024). Expert teleconsultation involving patients and their primary neurologists for the management of multiple sclerosis in regions without specialists. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, **15**, 158-163, DOI: 10.1111/ncn3.12824.

Moriya, H., Fujieda, Y., Inoue, Y., Miyamoto, K., Anada, M., Tanaka, D., Kudo, A., Abe, M., Nagai, A., Hisada, R., Kono, M., Kato, M., Amengual, O., Matsuno, Y., Yabe, I., & Atsumi, T. (2024). Muscle vasculitis in patients with polymyalgia rheumatica; three case series. *Modern Rheumatology Case Reports*, DOI:10.1093/mrcr/rxae072.

Murakami, M., Takada, M., Shibata, Y., Shirai, K., Ohnuma, S., & Yasutaka, T. (2024). Exploring the differences and influencing factors between top-down and opinion-reflective approaches regarding public acceptance of final disposal of soils removed after the Fukushima nuclear accident. *Radiation protection dosimetry*, **200**(16-18), 1514-1518, DOI:10.1093/rpd/ncae017.

Nakazawa, T., Tatsumi, T., Souma, Y., & Ohnuma, S. (2024). An effect of storytelling on attitude changes in deliberative mini-publics. *Journal of deliberative democracy*, **20**(1), DOI:10.16997/jdd.1426.

Nomura, T., Iwata, I., Eguchi, K., Fujii, S., Inoue, T., Tarisawa, M., Ishio, T., Toyama, Y., Uwatoko, H., Shirai, S., Matsushima, M., Yaguchi, H., & *Yabe, I. (2025). Requirement of repetitive serum VEGF measurements in POEMS syndrome. *Internal Medicine*, **64**(5), 769-773, DOI:10.2169/internalmedicine.4086-24.

Nomura, T., Iwata, I., Kimura, S., & *Yabe, I. (2024). Pembrolizumab-induced immune-related bilateral vocal cord paralysis. *Internal Medicine*, **63**(22), 3115-3116, DOI:10.2169/internalmedicine.3599-24.

Nomura, T., Muramatsu, K., *Yaguchi, H., Uwatoko, H., Kawashima, A., Izumi, K., Ujiie, H., Fukazawa, T., & *Yabe, I. (2024). Three cases of multiple sclerosis presenting with palmoplantar pustulosis while receiving ofatumumab. *Journal of the Neurological Sciences*, **467**, 123315, DOI:10.1016/j.jns.2024.123315.

Nonaka, T., Ae, R., Kosami, K., Tange, H., Kaneko, M., Nakagaki, T., Hamaguchi, T., Sanjo, N., naamura, Y., Kitamoto, T., Kuroiwa, Y., Kasuga, K., Doyu, M., tanaka, F., Abe, K., Murayama, S., Yabe, I., Mochizuki, H., Mastushita, T., Murai, H., Aoki, M., Fujita, K., harada, M., Takao, M., Tsukamoto, T., Iwasaki, Y., Yamada, M., Mizusawa, H., Satoh, K., & Nishida, N. (2024). A retrospective cohort study of a newly proposed criteria for sporadic Creutzfeldt–Jakob disease. *Diagnostics,* **14**(21), 2424, DOI:10.3390/diagnostics14212424.

Ogawa, K., Yang, Y., Yang, H., Imai, F., & Imamizu, H. (2024). Human sensorimotor cortex reactivates recent visuomotor experience during awake rest. *bioRxiv*, DOI:10.1101/2024.05.26.595974.

Ogura, Y., Kawamori, A., & Matsushima, T. (2024). Chicks make stochastic decisions based on gain rates of different time constants. *Behavioural Processes*, 105134, DOI:10.1016/j.beproc.2024.105134.

Ohashi, K., Takahashi-Iwata, I., Jieyu, Z., Sakushima, K., Yabe, I., & Ogasawara, K. (2024). Are There Shortages and Regional Disparities in Lecanemab Treatment Facilities? A Cross-Sectional Study. *Health Services Insights*, **17**, 11786329241299312, DOI:10.1177/11786329241299312.

Oshino, T., Shikishima, K., Moriya, Y., Ishikawa, K., Abe, M., Yaguchi, H., Hosoda, M., Tanaka, K., Yabe, I., & Takahashi, M. (2024). Significant improvement in paraneoplastic neurological syndromes without identifiable anti-neural antibodies in patients with breast cancer after breast surgery. *International Cancer Conference Journal*, **13**(3), 275-280, DOI:10.1007/s13691-024-00677-3.

Sakurai, K., Tokumaru, A. M., Yoshida, M., Saito, Y., Wakabayashi, K., Komori, T., Hasegawa, M., Ikeuchi, T., Hayashi, Y., Shimohata, T., Murayama, S., Iwasaki, Y., Uchihara, T., Sakai, M., Yabe, I., Tanikawa, S., Takigawa, H., Adachi, T., Hanajima, R., Fujimura, H., Hayashi, K., Sugaya, K., Hasegawa, K., Sano, T., Takao, M., Yokota, O., Miki, T., Kobayashi, M., Arai, N., Ohkubo, T., Yokota, T., Mori, K., Ito, M., Ishida, C., Idezuka, J., Toyoshima, Y., Kanazawa, M., Aoki, M., Hasegawa, T., Watanabe, H., Hashizume, A., Niwa, H.,

Yasui, K., Ito, K., Washimi, Y., Kubota, A., Toda, T., Nakashima, K., Aiba, I. & J-VAC study group. (2024). Conventional magnetic resonance imaging key features for distinguishing pathologically confirmed corticobasal degeneration from its mimics: a retrospective analysis of the J-VAC study, *Neuroradiology,* **66**(11), 1917-1929, DOI:10.1007/s00234-024-03432-w.

Shibata, Y., Cui, Q., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ue, H., Kihara, N., Takamoto, M., Yasutaka, T., & Ohnuma, S. (2025). Opinion changes among participants in citizen participation workshops: a case study on the final disposal of removed soil outside Fukushima Prefecture. *Frontiers in Environmental Science*, **13**, 1507210, DOI: 10.3389/fenvs.2025.1507210.

Shibata, H., & Ogawa, K. (2024). Role of the left inferior frontal gyrus in transforming format types of action descriptions between stimuli and representations. *Journal of Neurolinguistics*, **71,** 101191, DOI:10.1016/j.jneuroling.2024.101191.

Shimada, S., Yamada, T., Minamoto, A., Matsukawa, M., Yabe, I., Tada, H., Oda, K., Ueki, A., Higashigawa, S., Morikawa, M., Sato, Y., Hirasawa, A., Ogawa, M., Kondo, T., Yoshioka, M., Kanai, M., Muto, M., & Kosugi, S. (2025). Nationwide survey of the secondary findings in cancer genomic profiling: survey including liquid biopsy. *Journal of Human Genetics*, **70**(1). 33-40, DOI:10.1038/s10038-024-01294-x.

Shirai, S., Mizushima, K., Shibata, Y., Matsushima, M., Iwata, I., Yaguchi, H., & *Yabe, I. (2024). Spinocerebellar ataxia type 4 is not detected in a cohort from Hokkaido, the northernmost island of Japan. *Journal of the Neurological Sciences*, **460**, 122974, DOI:10.1016/j.jns.2024.122974.

Shirai, S., Mizushima, K., Shibata, Y., Matsushima, M., Iwata, I., Yaguchi, H., & *Yabe, I. (2024). CAG Repeat Expansion in THAP11 is Not Detected in a Cohort with Spinocerebellar Ataxia from Hokkaido, the Northernmost Island of Japan, *Movement Disorders.* **39**(9), 1657-1658, DOI:10.1002/mds.29975.

Takada, M., Murakami, M., Ohnuma, S., Shibata, Y., & Yasutaka, T. (2025). Public perception and underlying values regarding final disposal of radioactively contaminated soil from a large nuclear accident. *Environmental management*, DOI:10.1007/s00267-025-02124-2.

Takeishi, Y., Yaguchi, H., Kudo, A., Fujii, S., Iwata, I., Nomura, T., Anada, M., Iwami, K., Yshino, M., Tanaka, D., Mizushima, K., Uwatoko, H., Shirai, S., Matsushima, M., Kimura, A., Tanaka, K., & Yabe, I. (2024). The importance of early immunotherapy in anti-GluK2 antibody-positive autoimmune cerebellar ataxia: A case report, *Journal of the Neurological Sciences*, **467**, 123306, DOI: 10.1016/j.jns.2024.123306.

Tanaka, D., Yaguchi, H., Yoshizaki, K., Kudo, A., Mori, F., Nomura, T., Pan, J., Miki, Y., Takahashi, H., Hara, T., Wakabayashi, K., & *Yabe, I. (2024). Behavioral and histological analyses of the mouse Bassoon p.P3882A mutation corresponding to the human BSN p.P3866A mutation. *Frontiers in Neuroscience*, **18**, 1414145, DOI:10.3389/fnins.2024.1414145.

Tanaka, M., Kameda, M., & Okada, K. (2024). Temporal Information Processing in the Cerebellum and Basal Ganglia. *Advances in experimental medicine and biology*, **1455**, 95-116, DOI:10.1007/978-3-031-60183-5_6.

Tanda, T., Naka, M., & Kawahara, J. (2024). Replicating camera perspective bias in the Japanese justice system. *Japanese Psychological Research*, DOI:10.1111/jpr.12549.

Tarisawa, M., Kano, T., Ishimaru, T., Nomura, T., Mizushima, K., Horiuchi, K., Iwata, I., Ura, S., Minami, N., Hozen, H., & Yabe, I. (2024). Clinical characteristics of patients with cryptococcal meningitis in Hokkaido: A case series. *Internal Medicine*, **63**(9), 1281-1287, DOI: 10.2169/internalmedicine.1944-23.

Tarisawa, M., Matsushima, M., Kudo, A., Sakushima, K., Kanatani, Y., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Hisahara, S., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Tamakoshi, A., Sato, N., Sasaki, H., Yabe, I., & HoRC-MSA study group. (2024). The Movement Disorder Society Criteria: Its Clinical Usefulness in Multiple System Atrophy. *Internal Medicine*, **63**(21), 2903-2912, DOI:10.2169/internalmedicine.3275-23.

Tateishi, W., & Takahashi, N. (2025). Cooperation beyond group boundaries is evaluated differently depending on the existence of intergroup competition. *Frontiers in Behavioral Economics*, **4**, DOI:10.3389/frbhe.2025.1493427.

Tayama, J., Hamaguchi, T., Koizumi, K., Yamamura, R., Okubo, R., Kawahara, J. I., Inoue, K., Takeoka, A., & Fukudo, S. (2024). Efficacy of an eHealth self-management program in reducing irritable bowel syndrome symptom severity: a randomized controlled trial. *Scientific Reports*, **14**(1), 4, DOI: 10.1038/s41598-023-50293-z.

Uno, T., Kasai, T., & Seki, A. (2024). The Developmental Change of Print-Tuned N170 in Highly Transparent Writing Systems, *Japanese Psychological Research*, **66**(1), 82-89, DOI: 10.1111/jpr.12397.

Wakita, M., *Yaguchi, H., Otsuki, M., Tanigawa, K., Miki, Y., Aiba, I., Yoshida, M., Nomura, T., Uwatoko, H., Mito, Y., Shinpo, K., Ikeuchi, T., Tanaka, S., Wakabayashi, K., & *Yabe, I. (2024). Pathological study of progressive supranuclear palsy the cases with mutations in Bassoon, *Neuropathology*, **45**(2), 140-152, DOI: 10.1111/neup.13009.

Yamada, K., Inoue, T., Nakamura, S., Horiuchi, K., Tsutsumi, Y., Munakata, S., Yagi, S., Fukami, Y., Katsuno, M., & Yabe, I. (2024). Chronic lymphoproliferative disorder of natural killer cells-related neurolymphomatosis with severe autonomic dysfunction: a case report. *BMC Neurology*, **24**(1), 362, DOI:10.1186/s12883-024-03879-7.

Yamada, K., Yaguchi, H., Ishikawa, K., Tanaka, D., Oshima, Y., Mizushima, K., Fujii, S., Nomura, T., Kudo, A., Uwatoko, H., Shirai, S., Takahashi-Iwata, I., Matsushima, M., Miyaishi, R., Otsuka, N., Tanei, Z., Yamaguchi, S., Tanaka, K., Taniguchi, K., Tanaka, S., & Yabe, I. (2024). Pretreatment pathological study in anti-LGI1 encephalitis. *Journal of the Neurological Sciences*, **466**, 123258, DOI:10.1016/j.jns.2024.123258.

Yamada, K., Yaguchi, H., Ishikawa, K., Tanaka, D., Oshima, Y., Mizushima, K., Uwatoko, H., Shirai, S., Takahashi-Iwata, I., Matsushima, M., Tanaka, K., & Yabe, I. (2024). Lambert-Eaton myasthenic syndrome complicated by anti-GABAB receptor encephalitis. *Internal Medicine*, **63**(9), 1295-1300, DOI:10.2169/internalmedicine.2569-23.

【学術雑誌（国内誌）】

深山誠也. (2024). 高齢者介護組織の組織能力パッケージ. 經濟學研究, **74**(1), 1-77.

保高徹生・村上道夫・高田モモ・大沼進・白井浩介・粟谷しのぶ・安東量子. (2024). 企画セッション開催報告 除去土壌の県外最終処分に向けた社会受容性調査—環境総合推進費研究から見えてきた重要事項—. リスク学研究, **34**(1), 21-26, DOI:10.11447/jjra.T-23-020.

石川楓・白井慎一・上床尚・岩田育子・松島理明・松川敏大・山口秀・矢口裕章・外丸詩野・矢部一郎. (2024). 腎移植 30 年後に発症した中枢神経原発移植後リンパ増殖性疾患の 1 例. 日本内科学会雑誌, **113**(6), 980-985, DOI:10.5692/clinicalneurol.cn-001991.

日下部春野・前田友吾・結城雅樹. (2024). 拒否回避傾向の文化差はどこからくるのか：関係流動性と評判期待の役割. 社会心理学研究, **40**(1), 1-10, DOI:10.14966/jssp.2023-025.

松島理明・白井慎一・矢部一郎. (2024). 球脊髄性筋萎縮症. 遺伝子医学, **14**(3), 3-4.

松島理明・矢部一郎. (2024). トリプレットリピート病（ハンチントン病，歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症）, 遺伝子医学, **14**(2), 3-4.

松島理明・矢部一郎. (2024). 筋ジストロフィー（筋強直性ジストロフィー，ジストロフィン異常症）. 遺伝子医学, **14**(4), 3-5.

望月葉子・尾方克久・熊田聡子・今井富裕・赤星千加子・日根野晃代・北原理恵・矢部一郎・望月秀樹・日本神経学会小児－成人移行医療対策特別委員会・日本難病医療ネットワーク学会小児－成人移行医療特別委員会. (2024). 各地における成人移行支援の取り組み：移行期医療支援センターの活動. 臨床神経学, **64**(12), 861-865, DOI:10.5692/clinicalneurol.cn-002033.

中澤高師・相馬ゆめ・辰巳智行・大沼進. (2025). Discourse Quality Index を用いた熟議評価の実践と課題 —共通善をめぐる概念と事例の架橋—. リスク学研究, **34**(4), 193-201, DOI:10.11447/jjra.L-24-016.

大嶌祐貴・上床　尚・矢口裕章・岩田育子・金子仁彦・高橋利幸・田中恵子・浦　茂久・藤原一男・矢部一郎. (2024). 自己免疫性脳炎の診断基準を満たすミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク抗体関連疾患の 3 例の臨床的特徴. 神経治療学, **41**(1), 64-68, DOI:10.15082/jsnt.41.1_64.

大杉尚之・河原純一郎. (2024). 頷きと首振りが選択判断に及ぼす誘導効果. 認知心理学研究, **21**(2), 67-77.

佐々木佑菜・柴田有花・向中野実央・松島理明・矢部一郎・山田崇弘. (2024).軟骨無形成症児の保護者/家族が抱える問題とその支援に関する検討：質的研究の統合. 遺伝子医学, **14**(3), 108-117.

柴田侑秀・中山幸太・相馬ゆめ・折登いずみ・横山実紀・大沼進. (2024). 北海道における高レベル放射性廃棄物地層処分文献調査応募を巡る動きについての新聞報道分析　リスク学研究, **33**(3), 139-151, DOI:10.11447/jjra.S-22-022.

柴田侑秀・土田茜・横山実紀・大沼進. (2024). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設立地の社会的受容と保護価値緩和の要因：複数立地の不公平低減と量的非感応性. 社会心理学研究, **39**(3), 192-203, DOI:10.14966/jssp.2214.

柴田有花・張香理・中村勝哉・山田晋一郎・松島理明・西郷和真・石浦浩之・関島良樹・丸山博文・池内健・長谷川一子・青木正志・勝野雅央・戸田達史・矢部一郎・日本神経学会遺伝医療に関する課題対策委員会. (2025). 本邦における成人発症の遺伝性神経・筋疾患の発症前検査に関する手引きとその作成経緯. 臨床神経学, **65**(2), 101-107, DOI:10.5692/clinicalneurol.cn-002049.

相馬ゆめ・中澤高師・辰巳智行・大沼進. (2024). 最不遇者情報が集団決定に与える効果：除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団討議実験. 心理学研究, **95**(2), 77-87, DOI:10.4992/jjpsy.95.22030.

相馬ゆめ・柴田侑秀・植穂奈美・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼 進. (2024). 除去土壌問題を巡る公共的討議における議論フレームの効果—集団討議実験を用いた検討—. リスク学研究, **34**(1), 45-54, DOI:10.11447/jjra.S-23-010.

相馬ゆめ・植穂奈美・柴田侑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 討議の質指標（DQI）を用いた多元的共通善および影響を受ける主体への配慮に関する比較. 人工知能学会全国大会論文集, **38** (4R3-OS-8b-03), 1-4, DOI:10.11517/pjsai.jsai2024.0_4r3os8b03.

瀧本(猪瀬)彩加. (2024). 子育てにおける共感の役割. 動物心理学研究, **74**(1), 57-59, DOI:10.2502/janip.74.1.15.

辻本光英・鈴木祐人・大沼 進. (2024). 除去土壌福島県外最終処分問題をめぐる公衆–ステークホルダー参加・関与による合意形成ゲームの開発：公共的視点と視点取得の両立可能な要件の検討. シミュレーション＆ゲーミング, **34**(2), 87-98, DOI:10.32165/jasag.34.2_87.

【学会発表（国際学会）】

Ando, K., Ioku, T., Kambara, A., Sugiura, J., Kanayama, E., & Ohnuma, S. (2024). Effect of media exposure on causal attribution of climate change: A cross-cultural comparison. *33rd International Congress of Psychology.*

Cui, Q., Shibata, Y., Hara, T., Soma, Y., Tsujimoto, M., Ito, T., & Ohnuma, S. (2024). An Analysis of Online Discussion Statements on the Issue of Removed Soils in Fukushima Prefecture, Japan. *The 21st Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence.*

Cui, Q., Shibata, Y., Hara, T., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ito, T., & Ohnuma, S. (2024). Utterance Analysis of Discussions Structure and Discourse Quality: A Case of Removed Soils in Fukushima Prefecture, Japan. *The 4th International Workshop on Democracy and AI in conjunction with the 33rd International Joint Conference on Artificial Intelligence.*

Fujii, S., Yaguchi, H., Kudo, A., Eguchi, K., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., Hayashi, H., Tanaka, K., Yoneda, M., Kimura, A., Shimohata, T., Takahashi, Y., Mizusawa, H., & Yabe, I. (2024). Establishment of a registry for autoimmune cerebellar ataxia and an assay system of autoantibodies. *65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).*

Haruki, Y., Suzuki, K., & Ogawa, K. (2024). Oneshot Heartbeat Detection: A Novel Task For Measuring Interoceptive Accuracy. *The 27th edition of the ASSC meeting*.

Honda, T., Bando, K., Ishikawa, K., Shirai, S., Yabe, I., Ishihara, T., Onodera, O., Higashiyama, Y., Tanaka, F., Kishimoto, Y., Katsuno, M., Shimizu, T., Hanajima, R., Takahashi, Y., & Mizusawa, H. (2024). Adaptability index of Prism Adaptability Test stably evaluates disease conditions of cerebellar degenerations in clinical environment. *International Congress for Ataxia Research (ICAR).*

Ikeda, K., Suzuki, K., Shibuya, T., Ujiie, K., & Ohnuma, S. (2024). Designing Machine Agents from Gameplay Data to Simulate Humans' Strategies in Social Dilemma Situation. *The SICE Festival 2024 with Annual*

Conference, organized by the Society of Instrument and Control Engineers.

Iwata, I., Niino, M., Tarisawa, M., Uwatoko, H., Shirai, S., Matsushima, M., Yaguchi, H., Nakahara, G., Miyatake, S., Matsumoto, N., & Yabe, I. (2024). First Report of familial ALS8 in Japan. *65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).*

Kameda, M., & Tanaka, M. (2024). Involvement of the lateral cerebellum in the detection of rhythmic deviations as revealed by primate optogenetics. *Neuroscience 2024 (Society for Neuroscience).*

Kaneko, S., Yamamoto, R., & Gilchrist, A. (2024). Lightness illusions show puzzling effects under brief exposure times. *46th European Conference on Visual Perception*.

Kudo, A., Yaguchi, H., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., Tanaka, K., Kimura, A., Watanabe, O., Yoneda, M., & Yabe, I. (2024). A retrospective study of autoimmune encephalitis over a 21-year period in a single institution. *65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).*

Kusakabe, H., Schug, J., & Yuki, M. (2025). Does relational mobility lead to social differences in positive and negative reputations? An examination using the experience sampling method. *The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention.*

Mashima, R., Kawamura, I., & Takahashi, N. (2024). What kind of information are people willing to spread?: Manipulating information credibility to examine information transfer bias in situations of indirect reciprocity. *The 20th International Conference on Social Dilemmas.*

Matsumoto, N., Doi, H., Yaguchi, H., Koshimizu, E., Yabe, I., & Miyatake, S. (2024). Complete nanopore repeat sequencing of SCA27B (GAA-FGF14 ataxia) in Japanese. *ASHG 2024 Annual Meeting*.

Matsushima, M., Sakushima, K., Kanatani, Y., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Hisahara, S., Tamakoshi, A., Sato, N., Sasaki, H., Yabe, I., Department of Health and Welfare, Hokkaido Government, Sapporo City Public Health Office, & HoRC-MSA study group. (2024). Natural history and epidemiological study of multiple system atrophy in Hokkaido: HoRC-MSA 2014-2023. *65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024)*

Matsushima, M., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Yaguchi, H., Miyatake, S., Matsumoto, N., Yamada, T., & Yabe, I. (2024). FGF14, ZFHX3, NOTCH2NLC gene repeat variant found in clinically diagnosed multiple system atrophy. A*SHG 2024 Annual Meeting.*

Mizushima, K., Shibata, Y., Shirai, S., Matsushima, M., Miyatake, S., Iwata, I., Yaguchi, H., Matsumoto, N., & Yabe, I.(2024). Prevalence of autosomal dominant spinocerebellar ataxias in Hokkaido. 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).

Mizutori, S., Ishida, A., & Takahashi, N. (2024). Does social value orientation moderate the effect of reaction time manipulation on cooperation? *The 20th International Conference on Social Dilemmas*.

Ohnuma, S., Kihara, N., Shibata, Y., Souma, Y., Tsujimoto, M., Cui,, Q., & Yasutaka, T. (2024). Evaluation of discourse quality in citizen participation workshops: A case study of decontaminated soil generated in Fukushima, Japan. *28th International Conference Association People-Environment Studies*.

Okada, K-I., & Tanaka, M. (2024). Dynamic changes in cortico-striatal transmission associated with striatal beta oscillations in monkeys. *Neuroscience 2024 (Society for Neuroscience).*

Ono, S., Aoki, S., & Takahashi, N. (2024). The reputation consequences of punishment - Comparison of give-some and take-some games -. *The 20th International Conference on Social Dilemmas.*

Pan, J., Shirai, S., Eguchi, K., Yamazaki, K., Kawabori, M., Li, Y., Hirata, K., Fujimura, M., & Yabe, I. (2024). 5-year follow up evaluation of the Parkinson's disease patients who received Deep Brain Stimulation. 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).

Sato, S., Mori, K., Masuda, M., Suzuki, M., Taomoto, D., Takasaki, A., Shigenobu, K., 5 Ouma, S., Shinagawa, S., Kobayashi, R., Watanabe, Y., Takeda, A., Miyagawa, Y., Kawanami, A., Tsunoda, N., Hara, K., Hotta, M., Hidaka, Y., Yoshiyama, K., Ikeuchi1, T., Yabe, I., Nakamura, M., Tanaka, F., Kawakatsu, S., Arai, T., Yokota, O., Izumi, Y., Yoshida, M., Hashimoto, M., Watanabe, H., Sobue, G., & Ikeda, M. (2024). Utility of case review meetings in Japanese FTD Consortium FTLD-J. *14th International Conference on Frontotemporal Dementias*.

Shibata, Y., Cui, Q., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ue, H., Kihara, N., Takamoto, M., Yasutaka, T., & Ohnuma, S. (2024). Conducting citizen participation workshops on the final disposal of removed soil: Evaluation of discourse quality. *Social Sciences and Humanities in the Management of the Recovery Process after the Fukushima Accident Workshop Program*.

Shibata, Y., Cui, Q., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ue, H., Kihara, N., Takamoto, M., Yasutaka, T., & Ohnuma, S. (2024). Examination of attitude change among participants in citizen participation workshop on final disposal of removed soil. *28th International Conference Association People-Environment Studies*.

Souma, Y., Nakazawa, T., Tatsumi, T., & Ohnuma, S. (2024). The Role of Fukushima Residents' Information on the Public Discourse about the Final Disposal of Removed Soil. *Social Sciences and Humanities in the Management of the Recovery Process after the Fukushima Accident Workshop Program*.

Souma, Y., Ue, H., Shibata, Y., Tsujimoto, M., Cui, Q., Nakazawa, T., Tatsumi, T., Arima, Y., & Ohnuma, S. (2024). Effect of Discussion Frame on the Reflection of Minorities' Opinions and the Evaluation of the Group Decision. *28th International Conference Association People-Environment Studies*.

Suzuki, K., Nakadegawa, Y., Miura, K., Shibuya, T., & Ohnuma, S. (2024). Understanding Behavioral Differences between Machine Agents and Human Participants Based on How They Play the Energy Transition Game. *The International Simulation and Gaming Association's conference 2024*.

Takahashi, N., Mifune, N., Matsumoto, Y., Kiyonari, T., Simunovic, D., & Yamagishi, T. (2024). Are cooperators

more likely to attack out-group members than defectors? - The second experiment. *The 20th International Conference on Social Dilemmas*.

Tanaka, D., Yaguchi, H., Kudo, A., Yoshizaki, K., Nomura, T., Hara, T., Takahashi, H., Miki, Y., Mori, F., Wakabayashi, K., & Yabe, I. (2024). The results of behavioral and pathological analyses of bassoon knock-in mice. *65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology (AOCN2024).*

Tanaka, M. (2024). Role of the cerebellum in rhythm processing. *Neuroscience Seminar, Institute of Biophysics, Chinese Academy of Science (CAS).*

Tanaka, M. & Okada, K-I. (2024). Cerebellar learning underlies neural entrainment to rhythmic visual stimuli in monkeys. *Neuroscience 2024 (Society for Neuroscience).*

Tsujimoto, M., Suzuki, Y., & Ohnuma, S. (2024). How can citizens take perspectives of the involved party?: Study using the removed soil game. *Social Sciences and Humanities in the Management of the Recovery Process after the Fukushima Accident Workshop Program.*

Tsujimoto, M., Suzuki, Y., & Ohnuma, S. (2024). Consensus process for final disposal of removed soil outside Fukushima Prefecture: Development of the "Removed soil game" incorporating the stepwise public-stakeholders engagement process. *28th International Conference Association People-Environment Studies*.

Ura, S., Miyagishi, M., Ishikawa, K., Wakita, M., Yaguchi, H., Yabe, I., Otsuki, M., Minami, N., Nishino, I., Mitsuhashi, S., & Matsuura, T. (2024). Assessment of cognitive function in a Japanese DM2 patient. *Joint Conference of The 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian Myology Center and The 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society*.

Yuki, M. (2025). Relational Mobility: Explaining the WEIRD Coexistence of Independence and Prosociality among North Americans from a Socio-Ecological Perspective. *Invited Workshop Talk at the Culture and Cognition Lab, University of Alberta.*

Yuki, M. (2024). Relational Mobility: Explaining the WEIRD coexistence of independence and prosociality among North Americans from a socio-ecological perspective Distinguished. *Guest Talk at the Social-Personality Psychology Workshop, University of British Columbia.*

Zhu, Y, & Yuki, M. (2024). High Relational Mobility Increases Green Consumption: A Cross-Cultural Study. *The 27th International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology.*

Zhu, Y, & Yuki, M. (2024). High Relational Mobility Increases Green Consumption: A Cross-Cultural Study. *The 13th Conference for Chinese Psychologists 2024.*

Zhu, Y, & Yuki, M. (2025). How Relational Mobility is Associated With Green Consumption? *The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention 2025.*

【学会発表(国内学会)】

安部楓・岡田研一・田中真樹. (2024). 小脳歯状核でのエラー確率の符号化と内側前頭葉への投射. 日本小脳学会第 14 回学術集会.

阿部匡樹・松田結梨. (2024). 経頭蓋交流電気刺激による共同力調整課題時の他者協調の修飾. HCG シンポジウム 2024.

阿部匡樹. (2024). 観ることで上手くなる：運動観察学習の原理と応用. 大阪体育大学スポーツ科学セミナー.

安藤香織・杉浦淳吉・Tam, K-P.・Hübner, G.・神原歩・安原彰子・辻本悠・大沼進. (2024).説得納得ゲーム参加は他者の環境問題への関心の認知，会話意図を変化させるかドイツ，香港，日本の比較. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2024 年秋期全国大会.

安藤柊平・鈴木研悟・澁谷長史・大沼進. (2024). ゲーミング実験によるキャップ&トレード制度がプレイヤーの認知と行動に与える影響分析. 日本シミュレーション＆ゲーミング学会 2024 年秋期全国大会.

Haruki, Y., Suzuki, K., & Ogawa, K. (2024). Psychophysiological Signatures of Smartphone Addiction in University Students. 日本生理心理学会第 42 回大会.

保高徹生・村上道夫・高田モモ・柴田侑秀・白井浩介・大沼進. (2024). 県外最終処分に向けて、わかってきたこと、これから必要なこと. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

今井史・宮坂真紀子・小川健二. (2024). 美大生-一般大学生間の視覚イメージ鮮明性および心的回転能力の比較. 日本イメージ心理学会第 25 回大会.

井上裕香子・松本良恵・高橋伸幸・清成透子. (2024). 選択の合致がジレンマ状況での協力に及ぼす影響 ～松本ら(2020)の実験データの再分析. 日本人間行動進化学会第 17 回大会.

石川楓・宮岸麻衣・脇田雅大・浦茂久・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 進行期胆嚢癌を合併した，高齢男性における抗 NMDA 受容体脳炎の 1 例. 第 42 回日本神経治療学会学術集会.

石川楓・瀬尾祥・大岩慧・宮岸麻衣・脇田雅大・浦茂久・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 抗 NMDA 受容体脳炎発症 1 年半後に成熟嚢胞性奇形腫を認めた 1 例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会〈ワークショップ〉.

岩見昂亮・江口克紀・長井梓・飯田有紀・濱田晋輔・本間早苗・武井麻子・森若文雄・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 歩行動画と深層学習を利用した脊髄小脳変性症患者の SARA 点数の予測. 第 65 回日本神経学会学術大会.

柿並義宏・安達寛子・郡山尚紀・瀧本(猪瀬)彩加. (2024). アジアゾウの超低周波音機能に関する探索的研究 ―集合場面に着目して―. 日本動物行動学会第 43 回大会.

亀田将史・田中真樹. (2024). リズムの逸脱検出には小脳が関与する～光遺伝学による検討.日本生理学会北海道地方会.

金子沙永・古賀柊羽. (2025). 縞模様の服が体型知覚に与える影響 ~体型に注意を向けていない場合の効果~. 日本視覚学会 2025 年冬季大会.

本村政勝・畑中裕己・森まどか・辻野彰・藤田信也・矢部一郎・五十嵐裕子・槍沢公明. (2024).日本人 LEMS 患者を対象としたアミファンプリジン（3,4-DAP）の臨床試験（LMS-005 試験）. 第 65 回日本神経学会学術大会　.

本村政勝・畑中裕己・森まどか・辻野彰・藤田信也・矢部一郎・五十嵐裕子・槍沢公明. (2024).日本人ランバート・イートン筋無力症候群（LEMS）患者を対象としたアミファンプリジン（3,4-DAP）の長期有効性と安全性（LMS-005 試験）. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会.

工藤彰彦・矢口裕章・渡部昌・藤井信太朗・野村太一・上床恵・上床尚・白井慎一・岩田育子・松島理明・田中惠子・高橋秀尚・畠山鎮次・矢部一郎. (2024). 免疫沈降法とショットガンプロテオミクスによる自己抗体測定方法の開発. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会.

Kuroshima, H., Sato, A., Takimoto-Inose, A., & Kubo, T. (2024). Does gait synchrony with a horse change its preference for humans? 日本動物心理学会第 84 回大会 .

松田直祥・阿部匡樹. (2024). 他者とのインタラクション場面における誤差に基づく観察運動学習. 第 18 回 Motor Control 研究会.

松島理明・上床尚・白井慎一・岩田育子・矢口裕章・山田崇弘・矢部一郎. (2024). NOTCH2NLC gene repeat variant found in clinically diagnosed multiple system atrophy. 日本人類遺伝学会第 69 回大会.

宮武聡子・土井宏・矢口裕章・輿水江里子・水口剛・森野豊之・和泉唯信・下畑亨良・吉田邦広・足立弘明・田中章景・矢部一郎・松本直通. (2024). Molecular characterization of SCA27B (GAA-FGF14 ataxia) in Japanese by nanopore sequencing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会.

森康浩・結城心太朗・中俣友子・大沼進. (2024). 河川におけるポイ捨て抑止のためのアクションリサーチ：パブリックアートを用いた介入の効果. 日本心理学会第 88 回大会.

向中野実央・松島理明・柴田有花・矢部一郎・山田崇弘. (2024). A case of genetic counseling involving a missense variant in ACAT1 detected by direct-to-consumer genetic testing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会.

村上道夫・高田モモ・柴田侑秀・白井浩介・大沼進・保高徹生. (2024). 除去土壌等の最終処分受け入れにおける手続き的公正及び分配的公正への選好の特性：全国郵送法調査. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

新井田光希・小川健二. (2024). 時間知覚と運動タイミングにおける刺激規則性の影響：脳内基盤についての検討. 基礎心理学会第 43 回大会.

大沼進. (2025). 除去土壌問題を巡る社会科学的課題：多元的公正からの実証的アプローチ.長崎大学 グローバルリスク研究センターセミナー.

大沼進. (2024). 共通善を巡る公共的討議に向けた討議の質指標の改善と展開：除去土壌福島県外最終処分問題を題材とした社会科学実験. キヤノングローバル戦略研究所・フューチャー・デザイン・ワークショップ 70.

大沼進. (2024). ありがた迷惑な善意：なぜ研究者は当事者の立場から調査できないのか. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

大沼進・柴田侑秀・相馬ゆめ・辻本光英・保高徹生. (2024). 除去土壌問題をめぐる多元的公正をふまえた対話の場のプロセスデザインに向けた課題. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

大槻美佳・中川賀嗣・輿水修一・緒方昭彦・新保和賢・水戸泰紀・田島康敬・濱田晋輔・浦茂久・金藤公人・保前英希・赤池瞬・岩田育子・松島理明・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 非流暢/失文法型原発性進行性失語（naPPA）の下位分類とその症候. 第 65 回日本神経学会学術大会.

岡田研一・田中真樹. (2024). サル皮質–線条体経路の信号伝達は線条体のβ律動に伴い動的に変化する. 第 47 回日本神経科学大会.

大澤英昭・大沼進. (2024). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設のサイト選定方式による立地受容への影響要因の違い. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

柴田侑秀・崔青林・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・髙本真依子・保高徹生・大沼進. (2024). 除去土壌県外最終処分を題材とした市民参加ワークショップ議論内容の分類と地域差の検討. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

佐久嶋研・矢部一郎. (2024). 診療ガイドラインに示された臨床評価スケールの国際障害分類を用いた体系的分析. 第 65 回日本神経学会学術大会.

崔青林・柴田侑秀・原大拓・相馬ゆめ・辻本光英・大沼進. (2024). 人工知能に求められるデモクラシーの支援技術に関する社会的期待の発見研究：福島県除去土壌問題を題材としたオンライン・ディスカッションの分析を踏まえて. 第 38 回人口知能学会全国大会 2024 オーガナイズドセッション：AI とデモクラシー.

柴田侑秀・崔青林・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・髙本真依子・保高徹生・大沼進. (2024). 市民参加ワークショップ参加者の意見変化と地域差の検討：除去土壌問題を題材として. 第 13 回環境放射能除染研究発表会.

柴田侑秀・崔青林・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・髙本真依子・保高徹生・大沼進. (2024). 討議の質指標を用いた市民参加 ワークショップの議論内容の評価：除去土壌の福島県外最終処分を題材とした共通善の検討. 日本社会心理学会第 65 回大会.

白井慎一・江口克紀・財津將嘉・小橋元・矢口裕章・中島健二・矢部一郎. (2024). レセプトデータを用いた脊髄空洞症における移行期医療の実態調査（第二報）. 第 65 回日本神経学会学術大会.

白井慎一・川堀真人・野村太一・江口克紀・山崎和義・松島理明・藤村幹・矢部一郎. (2024).当院におけるパーキンソン病 DBS 症例の晩期フォローについて. 第 24 回北海道機能神経外科研究会.

白井慎一・矢口裕章・矢部一郎. (2024). Recent Advances in Hereditary Spinocerebellar Ataxia.日本人類遺伝学会第 69 回大会〈シンポジウム 18〉.

相馬ゆめ・植穂奈美・柴田侑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 議論フレームが共通善への言及に与える影響についての検討. 日本社会心理学会第 65 回大会.

相馬ゆめ・植穂奈美・柴田侑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 除去土壌問題を巡る公共的討議における意見変化：議論フレームに着目した集団討議実験による検討. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

相馬ゆめ・植穂奈美・柴田侑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 公共的討議の議論内容に対する議論フレームの影響に関する集団討議実験を用いた検討：討議の質指標（DQI）を用いた多元的共通善および影響を受ける主体への配慮に関する比較. 第 5 回合意と共創研究会.

相馬ゆめ・植穂奈美・柴田侑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 公共的討議の議論内容に対する議論フレームの影響に関する集団討議実験を用いた検討：討議の質指標（DQI）を用いた多元的共通善および影響を受ける主体への配慮に関する比較. 第 38 回人口知能学会全国大会 2024 オーガナイズドセッション：AI とデモクラシー.

杉浦淳吉・安藤香織・Hübner, G.・Tam, K-P.・神原歩・大沼進. (2024). 省エネ行動のアイディア開発の国際比較と経年変化 説得納得ゲームを用いた検討. 日本社会心理学会第 65 回大会.

垂澤由美子・柿本敏克・細野文雄・大沼進. (2024). 集団間関係におけるコミュニケーション志向性モデルの検討のための予備比較：仮想世界ゲームの対面版と電子版. 日本シミュレーション＆ゲーミング学会 2024 年秋期全国大会.

高田モモ・村上道夫・大沼進・柴田侑秀・保高徹生. (2024). 県外最終処分政策に対する国民の認識：オンラインアンケートとインタビュー調査で見えてきたこと. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

竹腰顕・木村暁夫・大野陽哉・吉倉延亮・矢口裕章・矢部一郎・下畑亨良. (2024). 自己免疫性小脳失調症の診断基準の有用性と限界についての検討. 第 65 回日本神経学会学術大会.

武田理熙・高田モモ・藤井新子・村上道夫・大沼進・白井浩介・柴田侑秀・Schneide, T.・保高徹生. (2024). 仮想的な原子力災害に起因する除去土壌等の最終処分の社会受容性の国際比較：オンラインアンケートの自由記述のテキスト解析による受容・非受容の要因評価. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

瀧本(猪瀬)彩加. (2024). 向社会行動は不公平忌避とともに進化してきた？ –フサオマキザルの食物分配や他者評価にみる個性にも着目して–. コントラリアン生物学第 6 回勉強会.

Takimoto-Inose, A., Inoue, M., Yonemura, A., Nagano, M., & Kawai, M. (2025). Experimental studies on cooperative behaviors in domestic horses (Equus caballus). 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会.

田中真樹. (2024). Contribution of the lateral cerebellum in monitoring behavioral errors in primates. 第 47 回 日本神経科学大会.

田中真樹. (2024). 周期刺激の小脳内部モデル. 第 15 回日本小脳学会学術大会.

Tanaka, M. (2025). Internal model of the cerebellum for rhythm perception. APPW2025 (日本解剖学会、生理学会、薬理学会合同大会).

Tomatsuri, T., Miyagawa, A., Takimoto-Inose, A., & Kuroshima, H. (2024). Decision-making of capuchin monkeys in a dilemma situation. 日本動物心理学会第 84 回大会.

辻本光英・河合康介・大沼進. (2024).. 対立する価値を乗り越えるための合意と共創過程の検討～ゲーミングシミュレーションを用いた研究～. 第 5 回合意と共創研究会.

辻本光英・鈴木祐人・大沼進. (2024). 除去土壌ゲームを用いた除去土壌福島県外最終処分に向けた合意形成過程の研究. 第 37 回日本リスク学会年次大会.

辻本光英・鈴木祐人・大沼進. (2024). 除去土壌ゲーミングの社会実装に向けた実践例の報告. 日本シミュレーション＆ゲーミング学会 2024 年秋期全国大会.

浦茂久・宮岸麻衣・石川楓・脇田雅大・矢口裕章・矢部一郎・廣上貢. (2024). 地域連携が塞栓源同定に有用であった ESUS と診断されていた若年性脳梗塞の 2 例. 第 12 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会.

浦茂久・脇田雅大・石川楓・宮岸麻衣・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 多発性単神経炎を呈した好酸球多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）8 例の治療経験. 第 42 回日本神経治療学会学術集会.

上床尚・佐藤翔紀・矢口裕章・山田萌美・佐藤和則・川島淳・深澤俊行・矢部一郎. (2024).オファツムマブ投与中のリンパ球減少についての検討. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会.

脇田雅大・宮岸麻衣・石川楓・浦茂久・矢口裕章・矢部一郎. (2024). 侵襲性 G 群溶連菌感染症による細菌性髄膜炎の 1 例. 第 28 回日本神経感染症学会総会・学術大会.

矢部一郎. (2024). 頭痛を症状とする遺伝性疾患 overview. 第 52 回日本頭痛学会総会〈シンポジウム 11〉.

矢部一郎. (2024). 認知症診療の現状と課題. 第 104 回北海道医学大会総会〈各科トピックス〉.

矢部一郎. (2024). 脳神経内科医の立場から. 第 65 回日本神経学会学術大会〈シンポジウム 09（PGT-M について）〉.

矢部一郎. (2025). 脳神経内科領域におけるゲノム医療の倫理的問題. 第 70 回医学系大学倫理委員会連絡会議学術集会.

矢口裕章・工藤彰彦・藤井信太朗・野村太一・江口克紀・矢部一郎. (2024). 本邦における自己免疫性小脳失調症の抗体測定体制の確立. 第 42 回日本神経治療学会学術集会〈シンポジウム 13〉.

矢口裕章・工藤彰彦・藤井信太朗・野村太一・矢部一郎. (2024). 自己免疫性小脳失調症に関連する自己抗体とレジストリ研究. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会〈シンポジウム 2〉.

矢口裕章・工藤彰彦・藤井信太朗・野村太一・矢部一郎. (2024). 自己免疫性運動異常症～自己免疫性小脳失調症を中心に～. 第 28 回日本神経感染症学会総会・学術大会〈シンポジウム 1〉.

矢口裕章・野村太一・工藤彰彦・藤井信太朗・矢部一郎. (2024). 自己免疫性脳炎診断と治療方針決定における脳波所見の重要性と今後の課題. 第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会〈SY27-4〉.

矢口裕章・谷川聖・三木康生・饗場郁子・吉田眞理・池内健・田中伸哉・若林孝一・矢部一郎. (2024). Bassoon 遺伝子 rare variant を有するパーキンソン症候群における神経病理学的検討. 第 65 回日本神経病理学会総会学術研究会.

矢口裕章・矢部一郎. (2024). Bassoon proteinopathy 病態解析研究の進捗. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究」令和 6 年（2024 年）度ワークショップ.

山縣豊樹・市川加伊斗・小川健二. (2024). 偽物の手に対する所有感に運動前野が果たす因果的役割を再考するためのデザイン分析. 日本生理心理学会第 42 回大会.

Zhu, Y., & Yuki, M. (2024). High Relational Mobility Increases Green Consumption: A Cross-Cultural Study. 日本社会心理学会第 65 回大会.

付録　組織構成員

(2025 年 3 月現在)

(1) 専任教員

小倉有紀子	社会科学実験研究センター・特任助教 JST さきがけ研究者

(2)兼務教員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター・センター長
田中真樹	医学研究院・教授、 社会科学実験研究センター・副センター長
宮内泰介	文学研究院・教授
尾崎一郎	法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授
五十嵐洋介	公共政策大学院・准教授
深山誠也	経済学研究院・准教授
小浜祥子	公共政策学連携研究部・准教授
矢部一郎	医学研究院・教授
結城雅樹	文学研究院・教授
高橋泰城	文学研究院・准教授
高橋伸幸	文学研究院・教授
竹澤正哲	文学研究院・教授
小川健二	文学研究院・准教授
瀧本彩加	文学研究院・准教授
河原純一郎	文学研究院・教授
金子沙永	文学研究院・准教授
河西哲子	教育学研究院・教授
阿部匡樹	教育学研究院・教授
中島晃	文学研究院・助教

(3)連携研究員一覧

坂上雅道	玉川大学脳科学研究所、 大学院脳科学研究科・教授
亀田達也	明治学院大学 情報物理学部・教授
増田貴彦	アルバータ大学・教授
Harvey Whitehouse	オックスフォード大学・教授
Kim-Pong Tam	香港科技大学・教授
仲真紀子	理化学研究所・理事
伊藤孝行	京都大学大学院情報学研究科・教授
松尾睦	青山学院大学経営学部・教授

(4)運営委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター・センター長
田中真樹	医学研究院・教授 社会科学実験研究センター・副センター長
増田哲子	メディア・コミュニケーション研究院・准教授
伊藤崇	教育学研究院・准教授
多留偉功	薬学研究院・准教授
服部 倫卓	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
河原純一郎	文学研究院・教授
尾崎一郎	法学研究科・教授
河西哲子	教育学研究院・教授
五十嵐洋介	公共政策大学院・准教授

(5)研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸	文学研究院・教授
阿部匡樹	教育学研究院・教授
松尾睦	青山学院大学経営学部・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・教授
河合正人	北方生物圏フィールド科学センター・准教授

(6)質保証委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
結城雅樹	文学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・教授 （外部委員）
泉澤成実	文学事務部事務長

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

社会科学実験研究センター